コード No. 11102

Anti-Human
Galectin-3 (87B5) Mouse IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： ガレクチンは脊椎動物を始め、線虫、昆虫、海綿動物などの無脊椎動物に広く分布し、真菌類においても存在することが知られています。このガレクチンの存在は、細胞質内にとどまらず、核、細胞表面、細胞外マトリックス等に存在し、発生、分化、形態形成、腫瘍転移、細胞死、RNA スプライシング等多くの生命現象に関与するとされています。ガレクチン-3 は、IgE 結合タンパク質、CBP35, CBP30, Mac- 2, L- 29, L- 31, L- 34 等と命名された β-ガラクトシド結合タンパク質で、構造的には糖鎖結合ドメイン(ガレクチンドメイン)とノンレクチンドメインから成るキメラ型レクチンです。その生物学的機能は未だ明確ではありませんが、その機能を解明すべく多くの研究がなされてきました。その結果、細胞の成長、接着、転移、アポトーシスといった生物学的現象においてガレクチン-3 の関与が明らかになってきました。例えば、ある種の細胞株ではガレクチン-3 の発現と悪性形質転換度の間に正の相関を持つことが示されています。また、ある種の悪性腫瘍においてもガレクチン-3 の発現と悪性度が正の相関を持つことが示され、ガレクチン-3 の検出が一つの腫瘍悪性度の指標になり得ると期待されています。

免疫抗原 ： ガレクチン-3 のリコンビナントタンパク質

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 ： 87B5 サブクラス ： IgG_{2a}

精製方法 ： プロテイン A による特異精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 ： 2～8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び ： ウエスタン･ブロッティング 2～5 µg/mL にて使用可能
使用方法 ： FACS 解析 2～10 µg/mL にて使用可能

文献 ：
1. Ochieng J, Platt D, Tait L, Hogan V, Raz T, Carmi P, Raz A. Structure-function relationship of a recombinant human galactoside-binding protein. Biochemistry. 1993 Apr 27;32(16):4455-60.
2. van den Brule F, Califice S, Castronovo V. Expression of galectins in cancer: a critical review.Glycoconj J. 2004;19(7-9):537-42.
3. Takenaka Y, Fukumori T, Raz A. Galectin-3 and metastasis.Glycoconj J. 2004;19(7-9):543-9.
4. Yang RY, Liu FT. Galectins in cell growth and apoptosis.Cell Mol Life Sci. 2003 Feb;60(2):267-76.
5. Liu FT, Patterson RJ, Wang JL. Intracellular functions of galectins.Biochim Biophys Acta. 2002 Sep 19;1572(2-3):263-73.

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp

051228/YH
090205/KK
120507/KK